令和4年度小・中学校等における起業体験推進事業実践事例

地域と連携して取り組む「地域の宝」を活かした起業体験

40コマ

亀山市立白川小学校（三重県）

■児童生徒数：48人■教職員数：17人　※令和4年5月1日現在

背景

本校ではキャリア教育の一環として、入学時から地域と連携して、稲作体験、蛍籠づくり、お年寄りのお宅訪問、障害福祉サービス事業所との交流活動等、多岐にわたる体験活動に取り組み、まとめの活動として、5・6年生の「総合的な学習の時間」において、起業体験活動（炭焼き・販売）を実施している。

起業体験の流れ

①「白川の宝を考えよう」
- これまで学習したことをふりかえり、地域の宝について考える。
- 地域の方に、地域の宝の一つである白川炭への思いを聞く。
- どんな炭があるのか？炭にどんなニーズがあるのか調べる。

②「炭を販売するための事業計画を立てよう！」
- 販売するために必要なことを考える。（販売時期、販売方法、価格設定、広報活動）
- 白川地区まちづくり協議会、白川小学校学校運営協議会に炭販売の協力依頼を行う。

③「製品を作ろう」
- 木炭の試作品を作り、箱詰め、パッケージ作成、同封物を作成する。
- 試作品を検討し、製品を制作。品質確認をして箱詰めを行う。

④「製品を販売しよう」
- 販売のための見本の展示依頼、ポスターの掲示依頼を行う。出張販売先への依頼。販売のためののぼり、はっぴ作成。販売の役割り分担を行う。

⑤「取組を振り返ろう」
- 収支の決算を通じて、販売活動を振り返るとともに、協力していただいた地域の方へ感謝の気持ちを伝える。

PICKUP

白川の宝を考えよう

白川炭について、地域や家庭でお話を聞き、昭和30年頃まで、白川では炭を焼くのを仕事にしていた人がいたことや、少し前（平成19年）まで、地域の老人会の方々が、炭焼きをしていたことが分かった。

炭焼きを通した地域の方の思いや、白川炭の調べ学習を行う中で、白川炭を活用した起業体験を行うこととした。

PICKUP

製品を作ろう

製品化に向け、木炭の試作品を作成した。木炭を大きさ別に分別し、6kgになるように、箱に木炭を詰めていった。箱詰めの作業では、炭が割れないように注意をすること、炭で黒くなった手で箱をさわると、箱が黒くなり見栄えが悪くなること、6kgに合わせて箱詰めをするための効率的な方法があることになどに気付いていた。

評価

人間関係形成・社会形成能力や自己理解・自己管理能力が高まっている

「自分の考えを持ち、自分の思いを言える」、「自分で判断し何事も最後までやり抜こうとする」、「人の話を真剣に聞くことができる」の項目で肯定的な回答が多く見られた。自分の思いや考えを伝えることで、友達とのよりよい関係を形成したり、お互いの役割を確認して、責任を持って最後まで活動することにつながっていると考えられる。

質問項目	4そう思う	3だいたいそう思う	2あまりそう思わない	1思わない	集計	
① 楽しく学校生活を送っている	69	25	0	0	98	%
	33	12	2	0	47	人数
② 学校の勉強がよくわかる	40	52	4	4	100	%
	19	25	2	2	48	人数
③ 自分の考えを持ち、自分の思いを言える	31	46	17	6	100	%
	15	22	8	3	48	人数
④ 自分で判断し何事も最後までやり抜こうとする	46	25	17	10	98	%
	22	12	8	5	47	人数
⑤ 人の話を真剣に聞くことができる	42	46	10	2	100	%
	20	22	5	1	48	人数